

## S06b 高銀緯に現れた突発的電波天体

新沼 浩太郎、国吉 雅也、松村 寛夫、岳藤 一宏、竹内 暁彦、貴田 寿美子、中村 亮介、鈴木 繁広、中山 悠、大師堂 経明(早大宇宙物理学研究所)、遊馬 邦之(久喜高校)

早稲田大学では、本年度完成したトランジェント電波源自動検出ソフト(Kuniyoshi, et al.2005)を使用し、早稲田大学那須パルサー観測所にて得られたデータにおけるトランジェント電波源、及び変動電波源の解析を集中的に開始した。

その結果、2004年度から2005年度にかけて、一日ないしは数日のみ電波強度が急激に強くなっているトランジェント電波源が複数発見された。2005年2月に行った17日間の連続観測のうち、2月14、15日に銀緯65度付近で2日間のみ見られたバーストについて今回は報告する。

我々は8台の固定球面鏡を2素子ずつ使い、干渉計として日々観測を重ねている。トラッキングができないため、地球の自転を利用し同一赤緯ラインを一日中観測し続けるドリフトスキャン方式をとっている。

赤経方向のビーム幅がおよそ1度あるため、ポイントソースであればおよそ4分の観測時間となる。このビーム幅と、突発的なフリンジの現れた2日間の前後日の同じ位置には全くフリンジが現れなかったことを合わせ考えると、このトランジェント電波源が現れてから消えるまでのタイムスケールは24時間以上72時間未満と予想される。